早苗月 10詠

蛍

たなか踏基

内股に
柔らかき裾
蛍の夜

蛍火は
群れ離るほど
交わしけり

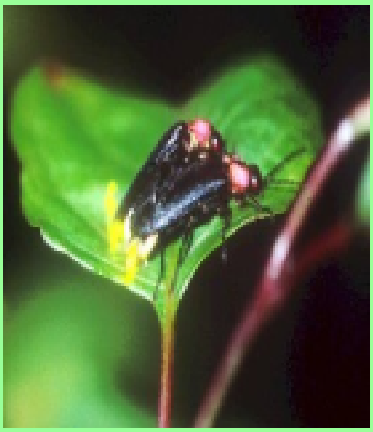
焦がれつつ
魂獲りに来る
闇ほたる

逢引の
よる水苦し
姫蛍

愛憎の
瀬にほたる来て
また点り

蛍火を
重ねてみたき
アメジスト

藤壷や
源氏ほたるの
灯に魔性



焔燈り
蛍なす気の
ほのかなる

音もせで
燃え漕ぎわたれ
ほたる舟

飛ぶ蛍
愛戯交わして
別れけり

早苗月 10詠

蝸牛

たなか踏基

恍惚の
まいまい枝に
しがみ付き

蝸牛
雲雨(うんう)を情で
おしはかり

点拡げ
でで虫憂う
細き角

ぴったりと
葉裏に二匹
かたつぶり

まいまいの
殻を閉ざして
恋やつれ

交尾せる
まいまい小さき
快楽の世

虫愛でる
姫や掌這う
かたつぶり

寂しがる
まいまい癒す
愛撫の葉

蝸牛
有無を言わせぬ
季のたより

角振りて
まいまい風の
夢に和し